

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書 24 章 13～35 節＞
復活された主にまつわる話の一つ。これをルカが記し残した理由は？

1 なぜイエス様はすぐに自分の正体を明かされなかったのだろうか？

一緒にいた弟子たちがイエス様だと分からなかったのはなぜか。それは、なぜイエス様が自分の正体をすぐ明かされなかったのかを問うことに繋がります。弟子たちの長い話を聞かれた後、イエス様は、「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことすべてを信じられないものたち」(25)と言われました。物分かりの悪い彼らを理解させるために、わざわざイエス様はこのような仕方を取られたのでしょうか。と言うことは、その後にイエス様が何をされ、どうなったかが大事です。

2 聖書全体が解き明かされて分かっていった弟子たち！

イエス様は続けて、「メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったではないか」(26)と言われ、「聖書全体にわたり、ご自分について書かれていることを説明された」(27)のです。この出来事を書き記したルカがこの箇所全体で一番力を入れているのは明らかにこの部分です。この後、確かに弟子たちは変わっています。私たちも、聖霊なる神に導かれて聖書に聞いて行く中で、主の死と復活の意味が分かって来るのです！

3 なぜ復活された主だと分かった時に消えてしまわれたのか？

弟子たちがイエス様だと分かった途端に、なぜイエス様は消えてしまわれたのでしょうか？よく読んで下さい。「二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった」(31)。イエス様は消えたのではなく「姿が見えなくなった」とあり、しかし、「目が開け」ともあります。見えなくなっても、逆に、いつも共にいて下さることに目が開かれたのです！「聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」(32)と話す彼らは、これからは聖書に聞く中で、「主はいつも共にいて下さる」と思えるようになったのです。31～32 節は 26～27 節と共に大事な箇所です。でも、もう一つあります。

4 イエス様を理解するために神様が教会を設けて下さった！

弟子たちは食事の時のイエス様を見て主だと分かりました(30)。教会の礼拝は、聖書の解き明かしを聞き、イエス様の十字架の死を思う聖餐式に与ります。今日の個所で示された二つを行っているのです。教会は私たちが分かるようになるために神様が設けて下さったのです！